



セネガル国月報

2017年4月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 4日、ダカール市内オベリスク広場において国家独立57周年記念式典が開催され、サル大統領、政府代表他、タンバジャン・ガンビア副大統領、エンバロ・ギニアビサウ首相、ガンビア及びモーリタニア軍参謀総長等が出席した。
- 12日、エレヌ・ティン国民議員は、全6党からなる野党連合「Force de l'Espoir(希望の力)」を結成し、ティン国民議員が代表を務める旨発表した。

外政

- 5日、ンジャイ外相は、シリアの化学兵器使用疑惑を受け、開催された国連安保理の緊急会合に出席し、化学兵器を始め、大量破壊兵器の使用を強く非難した。
- 6日、ベルギーのブリュッセルにおいて、ンジャイ外相はモグリーニ EU 外務・安全保障政策上級代表と会談した。
- 12日から13日にかけて、ソウザ・ポルトガル大統領はセネガルを公式訪問した。
- 17日から18日にかけて、ラブロフ・ロシア外相の招待を受け、ンジャイ外相はロシアを公式訪問した。
- 18日、サパン仏財務相は、バ財務相と共に、ダカール市内の都市高速鉄道(TER)の始発駅を訪問した。
- 27日、セネガルにて行われたハブレ元チャド大統領に係るアフリカ特別法廷(CAE)控訴審において、同元大統領の終身刑が確定した。
- 28日、ンジャイ外相は、北朝鮮問題をめぐり開催された国連安保理の閣僚級会合に出席し、北朝鮮の核実験及び弾道ミサイルの発射について、最も強い表現で非難すると述べた。

経済

- 英国中国海洋石油有限公司(CNOOC UK Limited)はセネガル・ギニアビサウ間における共同開発海域「AGC Profond」鉱区の石油・ガス開発権の65%をImpact Oil and Gas社から買収した。
- 25日、英BPはTimis Corporationが保有していたモーリタニアとの国境沿いのサンルイ沖深海の「Tortue」鉱区及びカヤール沖深海の権益30%を買収した旨発表した。
- 25日、パリにおいてバ財務相及びサパン仏財務相、仏開発庁(AFD)総裁は都市高速鉄道(TER)建設計画のための1,296億FCFA(約9,500万ユーロ)の支援協定2件に署名を行った。

内政

1 国家独立57周年記念式典

- 3日、国家独立記念日を前にサル大統領は国民に向けて演説を行った(5日 Le Soleil)。
- 4日、ダカール市内オベリスク広場において国家独立記念式典が開催され、サル大統領、政府代表、軍関係者、外交団等が出席した。同式典にはタンバジャン・ガンビア副大統領、エンバロ・ギニアビサウ首相、ガ

ンビア及びモーリタニアの軍参謀総長等も参加した。軍隊、準軍事組織、市民ら約 6,000 人が行った行進の中には、招待されたガンビア軍も参加した(4 日 APS 通信)。

2 ハリファ・サル・ダカール市長の公金横領容疑

- 3 日、予審裁判長は、公金横領の容疑が持たれているハリファ・サル・ダカール市長の予審を終了し、同ダカール市長弁護団から出されていた同市長他 7 名の仮釈放申請を却下した(5 日 Le Quotidien)。

3 国民議会選挙

- 6 日、選挙事務局(DGE)は、7 月 30 日に実施される国民議会選挙の立候補者名簿の届出期間を 5 月 26 日から 5 月 30 日午前零時とし、公認立候補者名簿は 6 月 9 日に公表される旨発表した(7 日 Le Quotidien)。
- 12 日、エレヌ・ティン国民議員は、ウスマン・ソニコ氏、ンバイ元首相等がそれぞれ党首を務める全 6 党による野党連合「Force de l'Espoir(希望の力)」を結成し、ティン国民議員が代表を務める旨発表した(13 日 Le Soleil)。

4 反現政権派によるデモ

- 7 日、ダカール市内のオベリスク広場において、「Y'en a marre」のメンバーを中心とする反現政権派が集まり、デモを実施した(8 日 Walfadjiri 他)。
- 16 日、12 日にメディナ・グナス(※Medina-Gounass:コルダ地方ベリンガラ県)で開催された宗教行事において火災が発生し、多くの被害者を出した事件を受けて、サル大統領は、大統領令により、18 日より 20 日までの 3 日間を国喪とする旨発表した(15 日及び 16 日 Le Soleil)。

5 ジャムニャジョ都市圏

- 18 日、サル・ジャムニャジョ都市圏振興庁代表は、ジャムニャジョ都市圏の工事進捗率は 67%となり、完工予定は 2018 年末となる旨発表した。また、同代表は、同都市圏には 2025 年までに 30 万人が居住する他、15 省庁及び国連 33 機関が移動し、公務員 5,800 名が移住する予定である旨合わせて発表した(19 日 L'Observateur 他)。

外政

1 ンジャイ外相の大量破壊兵器使用批判

- 5 日、ンジャイ外相は、シリアの化学兵器使用疑惑を受け、開催された国連安保理の緊急会合に出席し、化学兵器を始め、大量破壊兵器の使用を強く非難するとともに、シリア問題解決に向けたセネガルの前向きな姿勢を表明した(10 日 Le Quotidien)。

2 ジャイ外相及びモゲリーニ EU 上級代表の会談

- 6 日、ベルギーのブリュッセルにおいて、ンジャイ外相はモゲリーニ EU 外務・安全保障政策上級代表と会談し、国境管理に係る総額 65 億 FCFA の EU 支援計画が数か月以内に実施される旨発表された。また、両者は次期 AU 首脳会合及び本年 11 月に予定されている「アフリカ平和と安全に関するダカール国際フォーラ

ム」について協議した他、移民問題については、2015年の移民サミット及び行動計画に沿って協力していく旨確認した(7日 Le Quotidien)。

3 UEMOA 特別首脳会合

- 10日、サル大統領は、コートジボワールのアビジャンで開催された西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)特別首脳会合に出席した。同会合において、2021年までの1任期限り、ニジェールから西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)委員会委員長が選出されることが決定した他、セネガルのママドゥ・ンジャイ氏が貯蓄・金融市場地域評議会(Conseil Regional de l'Epargne Publique et de Marches Financiers)議長に就任した。また、2018年に、セネガルが1任期限りで BCEAO 副総裁職を務めることが決定した(10日 APS 通信及び 11日 Le Temoin)。

4 ポルトガル大統領のセネガル訪問

- 12日から13日にかけて、ソウザ・ポルトガル大統領はセネガルを公式訪問した。
- 12日、ソウザ大統領は、サル大統領と共同記者会見を開き、2017年末までに両国主催による共同委員会の開催、ポルトガル企業、セネガル政府及び民間セクターの連携への検討の開始が発表された他、サル大統領は、ギニアビサウの主権を完全に尊重したセネガル及びポルトガルの連帯の必要性について触れ、コナクリ合意の実行に向けた国際社会の協力を呼びかけた(13日 L'Observateur)。
- 13日、ソウザ大統領及びサル大統領はジャムニャジョにおけるポルトガル支援による救急車組立工場建設計画(総額32億7,900万FCFA、年間500台生産予定)の竣工式に出席した(13日及び14日 Le Soleil 他)。

5 セネガル・ギニアビサウ関係

- ギニアビサウにおける政治的危機の解決に向けた戦略支援のため、ペンダ・ンボウ仏語圏国際機関(OIF)担当大臣がセネガル政府代表としてギニアビサウを訪問し、大統領府、市民社会、政党関係者等と面会した他、14日、国民議会議長と会議を開催した。5月初旬にはサル大統領がギニアビサウを訪問する予定(12日インターネット紙 bambaramdipadida.blogspot.sn)。

6 ンジャイ外相のロシア訪問

- 17日から18日にかけて、ラブロフ・ロシア外相の招待を受け、ンジャイ外相はロシアを公式訪問し、同地において開催された「経済フォーラム」の初日の会合を主催した。一方、ラブロフ外相は、ロシア企業家の開発ミッションが近日セネガルを訪問する旨約束した(18日 Le Soleil)。

7 仏経済・財務大臣のセネガル訪問

- 18日、サパン仏経済・財務大臣は、バ経済・財政・計画大臣と共に、ダカール市内の都市高速鉄道(TER)の始発駅を訪問し、同計画は将来的にセネガルの経済発展にとって極めて重大かつ構造的な大規模計画の一つであると述べた(18日 Le Soleil)。

8 GGGI 事務所の新設

- ンジャイ外相はグローバルグリーン成長研究所(Global Green Growth Institute: GGGI)のセネガル事務所の設置に係る合意協定に署名した(18日 Le Soleil)。

9 中国マカオ・レジェンド・デベロップメント社最高経営責任者のサル大統領表敬

- 19日、観光及び農業セクターを中心としたセネガルとのパートナーシップの構築を図るべく、中国企業マカオ・レジェンド最高経営責任者がサル大統領に表敬を行った(21日 Le Soleil)。

10 マハマト駐マリ国連事務総長特別代表のサル大統領表敬

- 20日、マハマト駐マリ国連事務総長特別代表はサル大統領に表敬を行い、マリにおけるセネガル兵の特筆すべき功績に対する謝意を伝えた。近日、セネガルより MINUSMA へ要員が派遣される予定であり、セネガルの要員派遣人数は近隣国において第1位となる予定(21日 Le Soleil)。

11 ハブレ元チャド大統領の終身刑確定

- 27日、セネガルにて行われたハブレ元チャド大統領に係るアフリカ特別法廷(CAE)控訴審において、特別控訴院は一審の終身刑を支持する判決を言い渡し、本判決をもって同元大統領の終身刑が確定した(28日 Le Soleil 他)。

12 セネガル・ガンビア関係

- 28日、ダカールにおいて、バルデ環境大臣はセネガルを訪問中のディバ・ガンビア環境大臣と共に両国国境間の森林資源管理に係る合意協定に署名を行った(29日、30日及び1日 Le Soleil)。

13 北朝鮮関係

- 28日、ンジャイ外相は、北朝鮮問題をめぐり開催された国連安保理の閣僚級会合に出席し、北朝鮮の核実験及び弾道ミサイルの発射について、最も強い表現で非難すると述べた(28日インターネット紙他)。

14 UNAMID 及び MINUSCA ミッション

- 28日、ダルフル国連・AU 合同ミッション(UNAMID)及び国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション(MINUSCA)に新たに派遣される第8次召集兵(各ミッション140名からなる合計280名)が参加する国旗掲揚式が開催された(29日、30日及び1日 Le Soleil)。

経済

1 MEDEF 国際部門アフリカ委員会会長のセネガル訪問

- 13日、ダカールを訪問中のフォンラドサフランス企業運動(MEDEF)国際部門アフリカ委員会会長はアニュ全国経営者評議会(Comité National de Patronat: CNP)議長と面会し、両者のパートナーシップ強化を再確認した。アニュ同議長は MEDEF とのジョイントアドベンチャーを奨励した。フランスの対セネガル投資額は17億ユーロとなり第1位となっている(14日 Le Soleil)。

2 都市近代化計画 (PROMOVILLES)

- 14日、セネガル政府及びアフリカ開発銀行は「都市近代化計画(PROMOVILLES)第1フェーズ」実施のための700億FCFA(約1億1,434万ユーロ)の借款契約に署名した。第1フェーズでは、主要10都市を始めとする13都市における基礎インフラ整備が実施される予定(15日及び16日 Le Soleil)。

3 共同体農業分野支援計画 (PRODAC)

- 20日、「共同体農業分野支援計画(PRODAC)」の一環において、イスラム開発銀行(IDB)支援による「農業企業家能力開発計画」(総額470億FCFA)の竣工式が開催され、ニヨン青年・雇用・市民組織大臣等が出席した。本計画はカフリン州、ルーガ州、ファティック州及びコルダ州を対象地域とし、農業生産法の開発及び若手起業家の能力強化を通じて農村部における雇用機会を創出するもの(22日 Le Soleil)。

4 韓国支援

- 21日、総額30億FCFAとなる韓国支援による2か年計画(2016年から2018年)「飲料水供給計画」第2フェーズの実施が発表された。本計画では、カオラック州、ティエス州及びカフリン州に給水塔、井戸等の整備を行い、飲料水を供給する(22日 Le Soleil)。

5 石油・ガス関係

- 3月23日、英国中国海洋石油有限公司(CNOOC UK Limited)はセネガル・ギニアビサウ間における共同開発海域「AGC Profond」鉱区の石油・ガス開発権の65%をImpact Oil and Gas社から買収した(3月31日インターネット紙 Leral)。
- 25日、ダカールにおいて英BPは「Energy Outlook 2017」を発表し、同社はTimis Corporationが保有していたモーリタニアとの国境沿いのサンルイ沖深海の「Tortue」鉱区及びカヤール沖深海の権益30%を買収した(右買収により権益の比率はBPが60%、Kosmos Energyが30%、PETROSENが10%となる)、ガスの生産開始は2021年の予定である旨発表した(26日 Le Temoin)。

6 都市高速鉄道(TER)建設計画

- 25日、パリにおいてバ財務相及びサパン仏財務相、仏開発庁(AFD)総裁は1,296億FCFA(約9,500万ユーロ)の支援協定2件に署名を行った。同支援は都市高速鉄道(TER)建設計画における鉄道の資材の購入及びのメーターゲージの刷新に使用される(26日 Le Soleil)。

その他

1 治安関係

- 3月28日、サンルイ州ロツソ市(セネガル・モーリタニア国境沿いの市)の警察は、セネガル人名義パスポートを所持していたコモロ人5名がセネガル・モーリタニア間の国境を通過しようとしていたところを逮捕した(3月29日 Le Temoin)。
- 3月29日、ICPOから国際指名を受けているモロッコ人2名が、トルコのイスタンブールからセネガルのダカール市内のレオポール・セダール・サンゴール国際空港に到着したところ、ISIL関係者の容疑で逮捕された(11日インターネット紙 Seneweb)。
- 1日、ダカール市内において、ジハーディズム活動に関与した疑いでナイジェリア当局より把握されていたナイジェリア人がダカール市内ファン地区の在セネガル・ナイジェリア大使館から外へ出たところを治安部

隊が逮捕した。同容疑者は、ボコ・ハラムのリクルート活動を行っていた旨供述した(12日 Walf Quotidien)

(注)「セネガル月報」は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)